

医療は誰のもの

地域医療構想を考える

「母はどうなるでしょうか」。米子市河崎にある真誠会セントラルクリニック(小田貢院長)の2階病棟で入院患者に付き添う61歳の文字さん(仮名)が、募る不安に耐えかね医療ソ

③

ーシャルワーカーの小山雅美さんに声を掛けた。「調整中ですが、何とかご希望に添う形にしたいと思います」。10分、15分。病棟の慌ただしさをよそに、2人のやり取りが続く。

文字さんは夫を亡くし、90歳になる認知症の義母と2人暮らし。介護保険サ

第3部 有床診療所の今

難しさ増す入院調整

を捉えた。

「調整中ですが、何とかご希望に添う形にしたいと思います」。10分、15分。病棟の慌ただしさをよそに、2人のやり取りが続く。



真誠会セントラルクリニックの病棟で、不安を抱える患者家族に寄り添う小山雅美さん

居が決まった。

辛い手術適用外だったが、そのまま入院し内科的治療を受けた。退院後も瘤の破裂リスクがあり、救急対応可能なセントラルクリニックへ転院。さらに併設の強化型介護老人保健施設「ゆうとぴあ」で病態を見極められた後、長年の在宅介護で精神的な疲れの色濃

途方に暮れる患者家族

19床のセントラルクリニックを核に、独自の医療・福祉ネットワークを構築する

福社ネットワークを構築する。その司なお継続的な医療が必要な患者をどう次につなげ、在宅復帰へと導くのか。切れ目のない医療・福祉連携の在り方が今、問われている。

米子市内の鳥取大病院など高度・急性期医療機関からの早期退院患者を受け入れ、医福連携の橋渡し役を担う小山さんは言う。

「確かに高齢で医療依存度が高く、日々の病態が不安定な方が増えています。総合的な医療ケアを施す診療所から次のステップにつながるよう準備し、やっと受け皿が決まっても、症状がぶり返し振り出しに戻ることもあります」

クリック

平均在院日数 各病院で患者が何日間入院しているかを示す指標。厚生労働省の調査によると、県内44病院(ベッド数20床以上)の2015年度実績は、高度急性期など一般病床17・9日(全国16・5日)▽療養病床103・6日(同158・2日)▽精神病床284・4日(同274・7日)▽結核病床92・8日(同67・3日)。

選肢肢チヨイス年々困難

「診療所のバックに多くの福祉施設群を抱えているからこそ、患者や家族の希望に添う選肢肢がチヨイスできる。ただ、その調整は年々難しくなっています」

「患者を見捨てない」(小田院長)というセントラルクリニックが引き受けた入院患者の在院日数(2016年度で平均30日)の最長は、過去10年で350日を数えたという。

(米子総局報道部・山根 毎週土曜掲載)